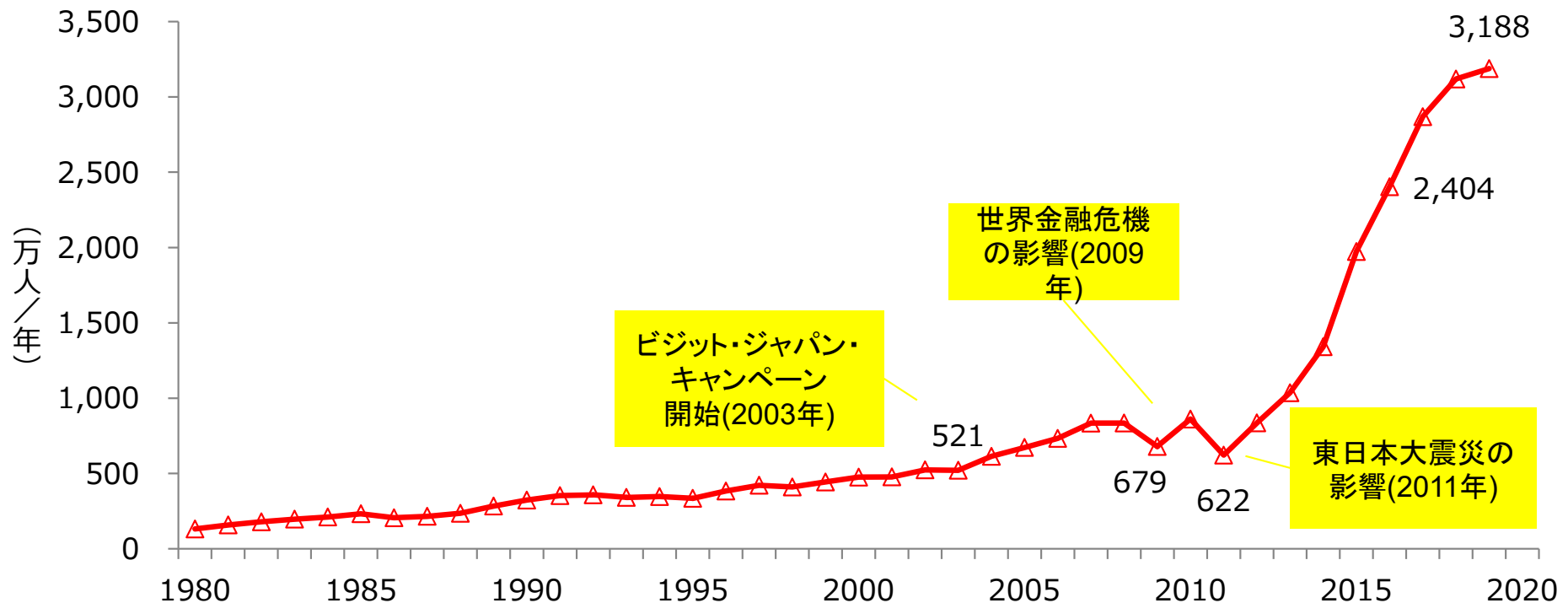


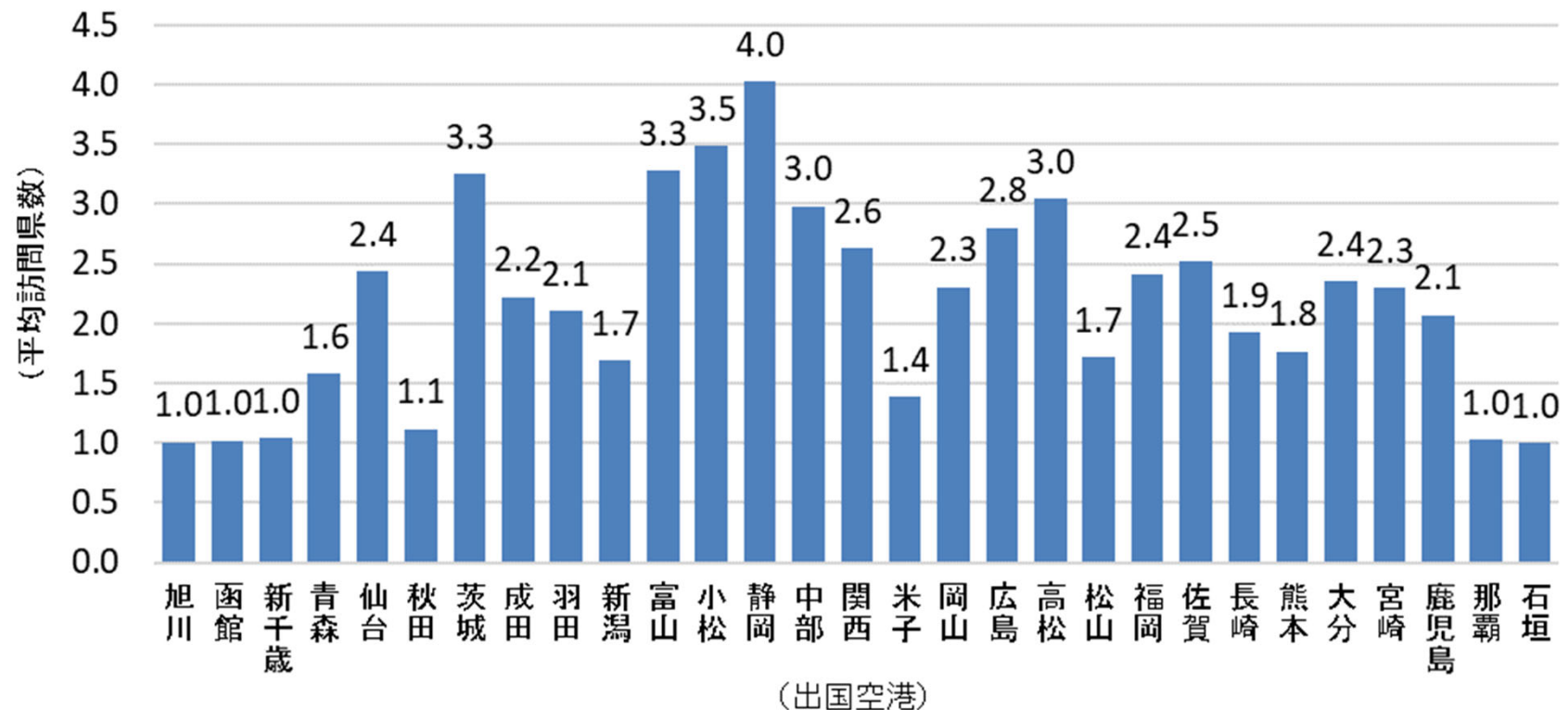
# 訪日外国人数の推移

- 当研究室の研究内容より、訪日外国人の日本国内における周遊実態について紹介します。
- 訪日外国人数は、2012年以降、平均28%増のペースで急増しています。
- その9割以上が出入国する空港におけるゲートウェイ機能の強化等が急務となっています。



# 出国空港別平均訪問都道府県数

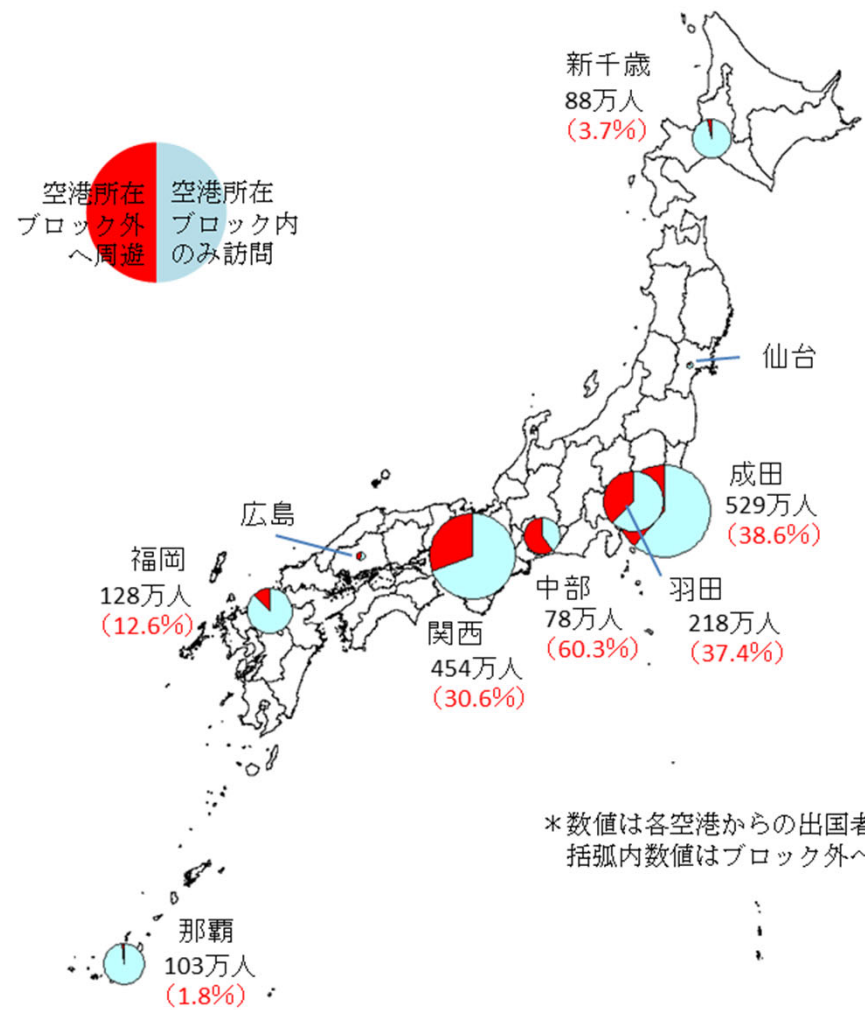
- 出国空港別平均訪問都道府県数は、下図のとおりです。
- 平均訪問都道府県数は1.5を上回っています。首都圏・中部圏・近畿圏のゴールデンルート上にある地域の空港を出国空港とする場合の平均は2.1~4.0です。一方、北海道や沖縄地域の空港を出国空港とする場合は1.0となっています。



※出展：平成27年度国際航空旅客動態調査確報値(年間拡大値)より作成  
 国総研資料第1044号「訪日外国人の航空路線別国内流動量の分析」

# 主要出国空港別の国内周遊パターン

- 主要出国空港別の国内周遊パターンは、下図のとおりです。
- 出国空港所在地域ブロック外へ周遊した割合は、中部空港では6割を超え、成田・羽田では4割近く、新千歳及び那覇空港では数%で極めて小さくなっています。



\*数値は各空港からの出国者数、  
括弧内数値はブロック外へ周遊した割合を示す。

地域ブロック名	都道府県名
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸	新潟県、富山県、石川県、長野県、福井県
中部	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄	沖縄県

※出展：平成27年度国際航空旅客動態調査確報値(年間拡大値)より作成  
 国総研資料第1044号「訪日外国人の航空路線別国内流動量の分析」

# 到着地域ブロック別利用交通機関別の流動量及び分担率

- 到着地域ブロック別利用交通機関別の流動量及び分担率を下図に示します。
- 各地域への移動は、いずれも航空利用数%~10%未満です。中でも北海道、東北、沖縄地域への移動には、航空が利用される割合が比較的高くなっています。

地域 ブロック	国内訪問地間の移動の利用交通機関							計	出国空港までのアクセスの利用交通機関						計
	航空	新幹線 等	在来線	バス	自動車	その他	不明		航空	鉄道	バス	自動車	その他	不明	
北海道	228	106	673	3,134	395	31	3	4,570		225	774	58	12		1,069
東北	31	145	15	98	34	6	6	335	0	7	21	5	1	1	34
関東	348	3,444	3,357	4,146	1,095	214	15	12,620	211	4,114	2,367	612	81		7,386
北陸	15	337	101	502	82	15	1	1,054	0	5	89	13	5		111
中部	42	817	408	1,975	255	53	24	3,574	10	321	439	103	22		896
近畿	168	3,565	4,748	4,048	620	187	45	13,380	31	2,723	1,456	227	31		4,468
中国	30	511	76	224	56	13	0	909		10	49	12	4		75
四国	13	69	51	166	50	9	1	358	11	5	42	5	0		64
九州	117	669	467	1,974	711	39	16	3,993	4	427	719	284	18		1,452
沖縄	93	25	68	398	551	8	25	1,168		290	353	388	8		1,039
合計	1,085	9,687	9,965	16,664	3,849	574	137	41,962	268	8,128	6,309	1,707	181	1	16,594

注) 空欄はサンプルがないこと、「0」は499人/年以下であることを示す。

地域 ブロック	国内訪問地間の移動の利用交通機関分担率 (%)							計	出国空港までのアクセスの利用交通機関分担率 (%)						計
	航空	新幹線 等	在来線	バス	自動車	その他	不明		航空	鉄道	バス	自動車	その他	不明	
北海道	5.0	2.3	14.7	68.6	8.6	0.7	0.1	100.0		21.0	72.4	5.4	1.1		100.0
東北	9.2	43.4	4.6	29.1	10.2	1.7	1.9	100.0	1.4	20.5	60.9	13.5	2.0	1.7	100.0
関東	2.8	27.3	26.6	32.9	8.7	1.7	0.1	100.0	2.9	55.7	32.0	8.3	1.1		100.0
北陸	1.4	32.0	9.6	47.6	7.8	1.4	0.1	100.0	0.3	4.2	80.0	11.4	4.1		100.0
中部	1.2	22.9	11.4	55.3	7.1	1.5	0.7	100.0	1.1	35.9	49.0	11.6	2.4		100.0
近畿	1.3	26.6	35.5	30.3	4.6	1.4	0.3	100.0	0.7	61.0	32.6	5.1	0.7		100.0
中国	3.3	56.2	8.4	24.6	6.2	1.4	0.0	100.0		13.2	65.7	16.2	4.9		100.0
四国	3.7	19.2	14.2	46.3	13.8	2.4	0.4	100.0	17.1	8.5	65.8	8.1	0.5		100.0
九州	2.9	16.7	11.7	49.4	17.8	1.0	0.4	100.0	0.3	29.4	49.5	19.6	1.3		100.0
沖縄	8.0	2.1	5.8	34.1	47.1	0.7	2.1	100.0		27.9	34.0	37.3	0.7		100.0
合計	2.6	23.1	23.7	39.7	9.2	1.4	0.3	100.0	1.6	49.0	38.0	10.3	1.1	0.0	100.0

※出展: 平成27年度国際航空旅客動態調査確報値(年間拡大値)より作成  
国総研資料第1044号「訪日外国人の航空路線別国内流動量の分析」

# 訪日外国人数の多い上位路線

- 国際航空旅客動態調査から推計した訪日外国人数の多い路線上位20位を示します。
- 大半が羽田・成田路線となっており、両空港が訪日外国人の国内周遊の拠点となっていることが分かります。また、過半数は幹線(新千歳、羽田、成田、伊丹、関西、福岡、那覇間を結ぶ)路線となっています。
- シェアは1位の路線でも9.7%であり、極端な偏りは見られません。

順位	路線	訪日外国人 旅客数 (千人/年)	シェア	シェア 累計
1	羽田-新千歳	131.4	9.7%	9.7%
2	羽田-伊丹	119.5	8.8%	18.6%
3	成田-新千歳	74.6	5.5%	24.1%
4	羽田-那覇	67.7	5.0%	29.1%
5	成田-伊丹	53.6	4.0%	33.1%
6	伊丹-新千歳	50.1	3.7%	36.8%
7	成田-那覇	49.1	3.6%	40.4%
8	羽田-福岡	44.4	3.3%	43.7%
9	羽田-広島	32.6	2.4%	46.1%
10	羽田-函館	30.6	2.3%	48.3%

順位	路線	訪日外国人 旅客数 (千人/年)	シェア	シェア 累計
11	羽田-関西	28.1	2.1%	50.4%
12	成田-福岡	26.5	2.0%	52.4%
13	伊丹-那覇	22.0	1.6%	54.0%
14	羽田-熊本	20.1	1.5%	55.5%
15	中部-新千歳	19.0	1.4%	56.9%
16	羽田-長崎	16.6	1.2%	58.1%
17	旭川-羽田	16.1	1.2%	59.3%
18	青森-羽田	15.8	1.2%	60.5%
19	羽田-釧路	14.8	1.1%	61.6%
20	静岡-新千歳	14.2	1.1%	62.6%

注) 網掛けは羽田または成田路線を表す。